



No. 104 2011. 10

(株) よかネット

もくじ

NETWORK

- 都市計画制度を考える①
線引き制度（区域区分）廃止で都城市はどうなったか？ 2
- よかネット勉強会報告
福岡市のアセットマネジメントの取り組みについて 5
- 島が生き続けるための挑戦
～小値賀島の観光まちづくりの取り組み～ 7

見・聞・食

- 甘木市・秋月「廣久葛本舗」での創作料理体験と本葛工房見学 12
- 自転車三昧の夏
～しまなみ海道、錦江湾一周自転車ツアー～ 15

近況

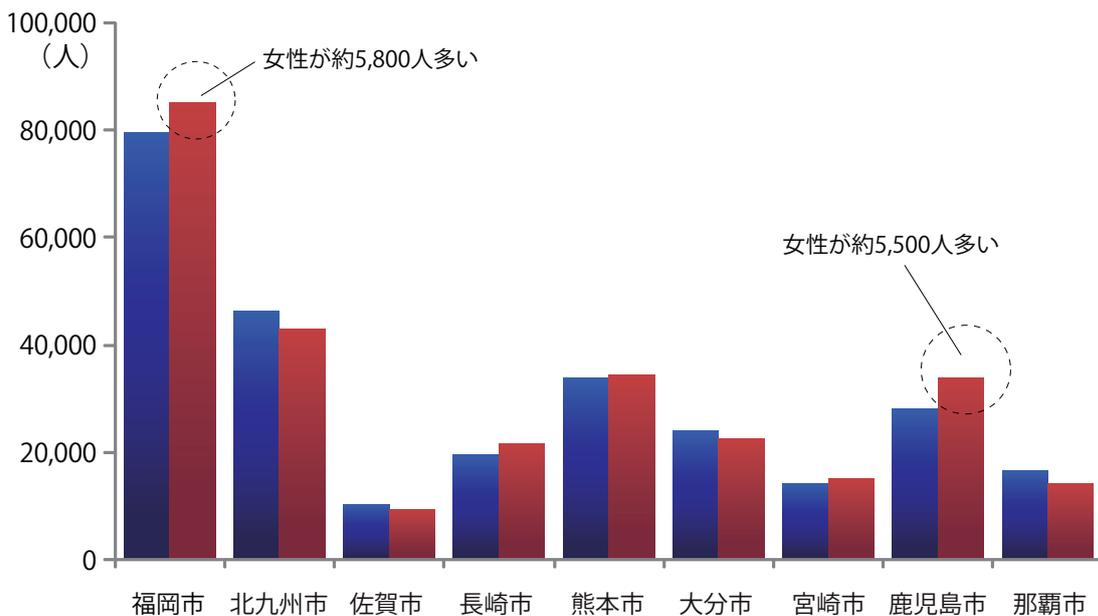
- 未婚の男女別人口で考える結婚への道 18
- 色の再現とともに当時を追体験した 19

お知らせ

- 八女市上陽町 手づくり焼酎「環」のご案内
～飲むほどに、酔うほどに地域が豊かになる焼酎です～ 20

●福岡市・鹿児島市の婚活事情は、女性が不利？

九州の主要9都市の20～44歳の未婚で主に仕事をしている男女別就業人口を見ると、福岡市、長崎市、宮崎市、鹿児島市では女性が多くなっています。特に福岡市、鹿児島市では女性の方が5,886人、5,529人と多く、女性が積極的に婚活をしないと結婚できない事情が浮かび上がってきます（18頁に詳述）。



九州内主要9都市：未婚で主に仕事をしている男女別就業人口（20～44歳、家事手伝い・無職など除く）
資料：平成17年国勢調査

都市計画制度を考える①

線引き制度（区域区分）廃止で都城市はどうなったか？

本田 正明

3年くらい前のことだったと思う。旧志摩町（現糸島市）の都市計画課長だった人と話していて、「志摩町も線引きを行って10年経ったので、線引き制度の意義を一度検証したい」といわれた。私もいろいろと係わってきた経緯があるので、ぜひやりましょうと即答したのだが、それから何もしないうちに、あっという間に月日が経ってしまった。

たまたま昨年、所員だった雪丸が『みどりと景観のまちづくり計画策定委員会』の委員に選ばれたことをきっかけに、都城市と縁ができた。都城市といえば、2000年の都計法改正で線引き制度（区域区分）が選択制になる前の1988年に線引き制度を廃止したところである（1987年の建設省都市局長の通達による）。旧志摩町の線引きの意義を検証する前に、一度廃止した地域がどのようになっているのか、現状を見ておきたいと思い、都城市に伺った。

●農業基盤によって守られる都市

都城市は、宮崎県の南西部に位置する人口約17万人の都市である（平成18年に山之口町・高城町・山田町・高崎町と合併）。合併によって宮崎市と接しているが、独立した都市圏域だ。都城ICを降りて、国道10号を南下しながら、外の景色に目をやると、全国どこにでもある沿道サービスの店舗が連なっている。しかし、一本脇道に入ってみると、きれいに区画された農地が広がっていて、計画性を感じることができる。南部にいくほどそれは顕著で、広大な農地と農村の様子は、とても市街地の近くとは感じないほど風景が一変していた。線引き制度を廃止しても、開発の秩序が保たれていそうだと、というのが都城市の第一印象である。

都市計画課に伺うと、さっそく屋上に案内された。都市計画区域がほぼ見渡せるので、視察がくると必ず最初に案内するそうだと。都城盆地

は広大で、周囲の山々までの距離が遠い。高い建物がほとんどないので、田園と山地の緑が多く視界に入ってくる。

「線引き制度が廃止になっても農地がきれいに守られてますね」と伺うと、「農業がしっかりしているんです。農業産出額は全国で2番目です。食料品・飲料などの製造業も多いですよ。優良農地のほとんどが農振農用地なので、開発されにくいです」とのこと。農林業が地域の産業としてきちんと機能しているので、農地も守られているようだ。

高い建物が少ないのも気になったので、理由を聞いてみると、「特に制限があるわけではありません。用途地域内だと地価は若干高めですが、用途地域外だと坪5～6万円ぐらいです。100坪ぐらいの土地に戸建て住宅を建てても1,500～1,600万円で済みます。よその人から、都城の人はみんな金持ちですかと聞かれたことがあります、それだけ住宅が安いんです」

「それと中心部から放射状に広がる道路交通環境がよいので、用途地区外から市の中心部まで車で10分しかかかりません。自転車でも通勤できます。ですから、1戸2,000万円以上するような分譲マンションの需要というのは少ないのではないのでしょうか」

ということだった。後で「都城市における区域区分廃止に関する資料」をいただき、公示地価の推移を見たが、用途地域内の住宅地の地価は、ここ10年横ばいで推移している。線引き制度の廃止で、郊外でも土地を買えるので、住宅地の地価は上がり、安定している。

●公共施設周辺での開発スプロール

では、開発はどこで行われているのだろうか。人口の推移をみると（次頁表参照）、総人口が1995年をピークに減少しているのに対し、用途地域内は横ばい、用途地域外では1990年か

都城市の人口の推移（単位：人）

	1990年	1995年	2000年	2005年
総人口	172,593	174,054	171,812	170,955
都市計画区域人口	125,901	126,591	127,555	128,504
用途地域内	78,337	78,915	76,273	76,464
用途地域外	47,564	47,676	51,282	52,040
都市計画区域外	46,692	47,463	44,257	42,451

資料：国勢調査（総人口）、その他は住民基本台帳（4月1日）

※都市計画区域は都城広域都市計画区域（高崎都市計画区域を除く）

らの15年間で4,500人ほど増加しているの、郊外へのスプロールは明らかである。

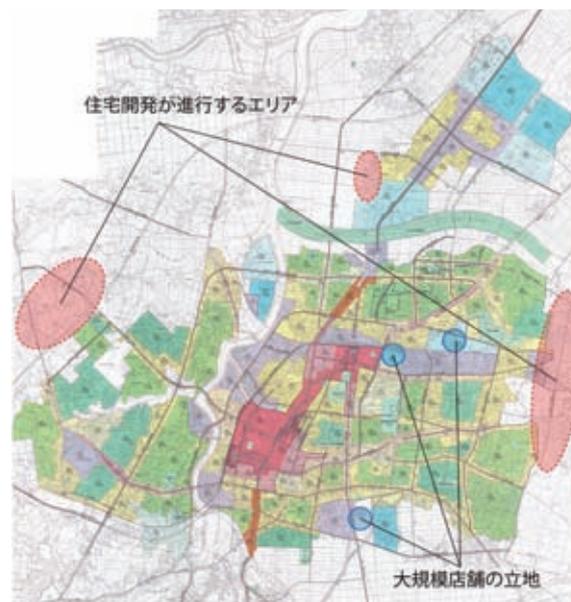
「西の方に行くと、用途地域外に台地があって、こちらに住宅開発が進んでいます。実は線引き制度の廃止以降に、用途地域外に小学校が設立されていたので、その影響もあるかもしれません。東部も三股町にかけて同じように開発が進んでいます。こちらも用途地域外に南九州大学があります」

都市計画図とまちの様子を交互に眺めながら、場所を確認すると、市街地の中心部から東西にベルト状に開発がにじみ出している。線引きの廃止によって、用途地域外の公共施設周辺に住宅や便利施設が多く立地している状況だ。接続する道路などのインフラがしっかりしているので、開発も行いやすいのかもしれない。学校などの公共施設は、開発許可が不要なため、市街化調整区域に立地するケースは他の都市でもよく見られるので、線引きを廃止すると、同じようなことが起こりうるかもしれないと感じた。

しかし、大規模商業施設の立地状況を伺うと、意外にも用途地域内や隣接したエリアに立地している。用途地域内の工場が郊外移転したのに伴って、まとまった用地があったためだが、「来られる際、ご覧になったと思いますが、中心市街地はシャッター通りです」とのこと。中心市街地の衰退は、どの都市でも共通の問題である。

●農業集落の人口増加にはつながらない

線引き制度の廃止で、一番聞きたかったのは、農村集落への影響である。都城市の線引き廃止の議論で議会でも最も多く取り上げられたのは、市街化区域と調整区域の人口バランスの間



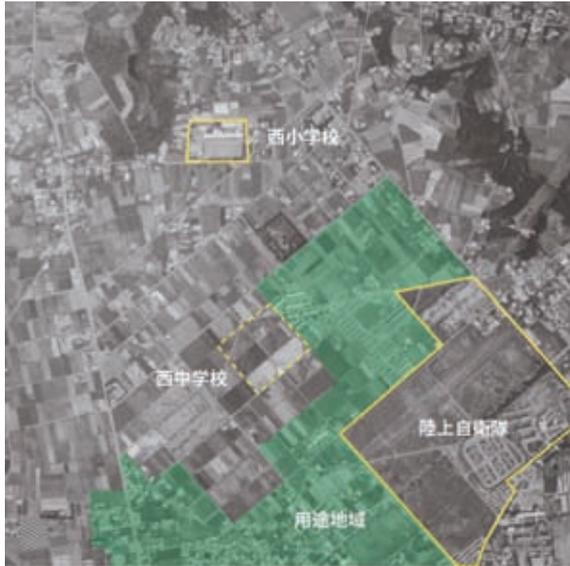
都城市の用途地域とその周辺の状況

題だった¹⁾。福岡都市圏のある都市で、市街化調整区域の住民との話合いの際も同様の意見がよく出ていたし、糸島市でも同じ理由で、線引き制度の廃止を求める人たちがいる。

「用途地域に隣接した地域は増えていますが、農村集落では減少が続いています。中心部から離れるほど顕著です」と言われるように、線引き廃止は、残念ながら農村集落の人口増にはあまり寄与していない。考えれば、どこにでも開発できるのだから、地価が同じであれば、少しでも便利なところを選ぶはずである。分家住宅も、若い人たちは濃密なコミュニティを避けて都市部に移るといった話を糸島市の不動産屋から聞いたことを思い出した。

農村集落が衰退しているからといって安易に線引き制度を廃止すれば、農業地域の中で利便性が高いところに開発が進むため、農村集落の人口増加や活性化にはつながりにくい。本当に集落のことを考えた土地利用政策を行うのであれば、開発できる場所を集落付近に限定するような地区計画などが望ましいが、郊外の戸建て住宅の空家や空地に新しい人が入りづらいのと同様に、農村集落に住みたがる人は稀である。以前、都城市で5年間で70人ほどの移

1) 阿部成治（1999）「都城広域都市圏における線引き廃止への経緯と効果」日本都市計画学会学術研究論文集



1980年の用途地域外の様子

住者がいる正応寺地区の取り組み（よかネット NO. 103）を紹介したが、他の地区では見られないそうである。

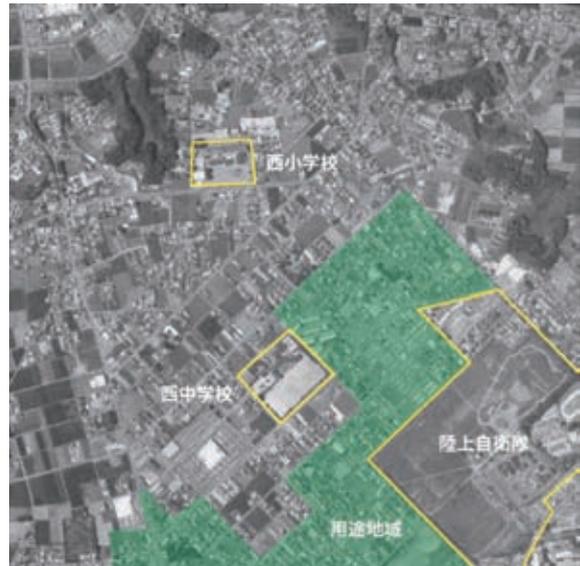
集落の付き合いはどれだけあって、近隣にどういふ人が住むか、といったことを事前にお互いが確かめるお見合い期間を設けるなど、受け入れの体制づくりを土地利用とセットで考えていかないといけないと思う。

●郊外にも必要な土地利用のルール

都城市の状況を踏まえて、改めて「線引き都市」と「非線引き都市」の特徴を整理してみた（右表参照）。極端に単純化しているのですが、実際には両方の問題が混在しているが、どちらにしても中心市街地や農村集落の衰退は起きているというのが現実である。

もちろん、線引き制度には開発の抑制効果はあるし、現在も機能している。農地環境の保全にも間接的ながら役割を果たしている。一方、線引きを廃止することで、スプロール化の問題はあるが、安価で広い戸建て住宅を多くの人に提供できている。

一概にどちらの選択が正しいとは判断できないが、都城市が広大な盆地であり、独立した都市圏域をもつ都市だからこそ、線引き制度の廃止ができたのではないかと思う。中心部からきれいに放射状に開発がにじみだしているのは、独立した都市圏域を持つからこそであり、開発



2006年の様子。住宅開発が進んでいる

線引き都市と非線引き都市の比較

線引き都市	非線引き都市
<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティ ・公共交通中心 ・環境負荷が少ない ・開発圧力の集中 ・土地利用の高度化 ・地価の増減幅の拡大 ・農地環境の保全 ・農村集落の衰退 ・中心市街地の衰退 	<ul style="list-style-type: none"> ・低密度都市 ・自動車交通中心 ・環境負荷が多い ・開発圧力の分散（スプロール化） ・低層住宅の広がり ・地価の平準化 ・用途の混在（公害などの発生） ・農村集落の衰退 ・中心市街地の衰退

の広がりを予想しやすく、道路などのインフラも既存のもので対応できる。広大な平地は、造成コストも低く、開発を吸収しても余りある農地が存在している。都市の成長のためのノリシロが十分にあったのだと思う。ただ、下水道整備や畜産関係の水質・悪臭への対応など、今後、後追いで考えていかなければならない都市計画の課題も数多く出てきている。「みどりと景観のまちづくり計画」の策定の取り組みをみても、やはりある程度の土地利用のルールが必要だと感じていることが伺える。

当初は旧志摩町との比較を考えていたが、都市規模や条件が異なるため、単純な比較は難しい。むしろ、都城市と同程度の人口規模の線引き都市で、平地の広がりや独立した都市圏をもつという特徴が類似した佐賀市との比較が、より線引き制度の意義に迫れるのではないかと感じた。次回は、その調査報告を行えればと思っている。（ほんだ まさあき）

よかネット勉強会報告

福岡市のアセットマネジメント
の取り組みについて

山田 龍雄

ある町の企画課の方と、これからの町の課題等について話し合っていたときに「今後、本町でも財政状況が厳しくなる中、そろそろアセットマネジメントに取り組んでいかななくてはならない時期にきている」と言われた。

私は、アセットマネジメントは県や政令指定都市レベルで、多くの公共施設を抱えている自治体が行うべきもので、通常の市町村レベルでは、そこまで考えなくてよいのではないかと、公共施設の管理担当課ごとに維持管理を考えておけばよいと思っていた。しかし、この担当者の話を聞くことで、小さな市町村でも行政資産の計画的かつ総合的な維持管理が急務になってきていることを認識させられた。

そこで、平成16年度から先行的にアセットマネジメントに取り組んでいる福岡市の中村部長（住宅都市局アセットマネジメント部）に、福岡市の取り組みについてお話していただいたので、その要点をご報告する。

●アセットマネジメントとは

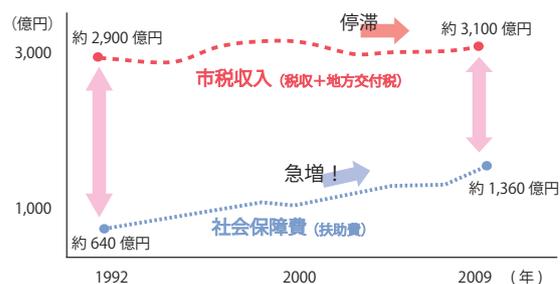
アセットマネジメント（Asset：資産・財産、Management：経営などの管理）を広く解釈すると、ある主体が保有する資産を最適な時期、最適な規模の建替え・修繕・維持管理を行うことによって、その資産の価値を高め、利益の最大化を図ることを目的とするものである。

しかし、一般に自治体が行うアセットマネジメントは、公共施設の管理水準を一定に維持するとともに、計画的な施設の整備、維持管理、大規模修繕などを実施することによって施設の延命化を図り、建替え・修繕・維持管理の経費（以下、建替え・修繕費等という）の縮減を実現する資産管理の方法と定義されている。

●当面、建替え・修繕費等を増やせない財政状況

中村部長から、福岡市の歳入と歳出（特に社

福岡市の財政状況（福岡市資料より作成）



会保障費)との関係について説明を受けたとき、その財政の厳しさを知り、改めてアセットマネジメントが緊急かつ重点施策であることを痛感させられた。

福岡市の税収入（市税＋地方交付税）における最近2～3年間の状況をみると約3,100億円であるのに対して、社会保障費（医療、介護、生活保護等の扶助費）は、高齢化や日本経済の低迷などの影響で急増しており、平成21年（2009年）時点で約1,360億であり、今後も増加が予想され、削減できる要素はない。このため、当面は急激な建替え・修繕費等の増大は許されない現状にある。

このような状況は、福岡市だけではなく、全国どこの自治体も共通の問題である。建替え・修繕費等をどう平準化していくかは、どこの市町村でも、緊急な課題といえる。

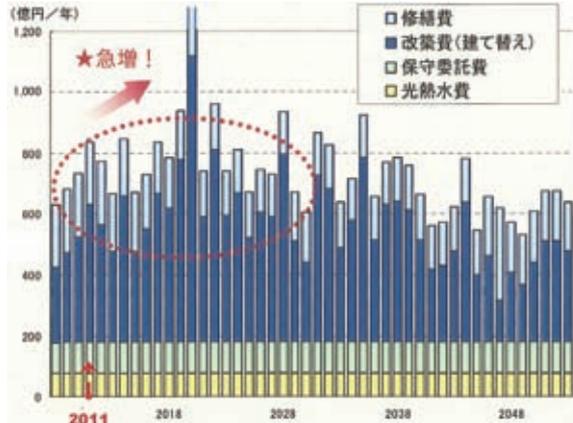
●平成42年ごろまで建替え・修繕費等を抑制

福岡市においては、都市の拡大に応じて昭和40年（1965年）後半から50年（1975年）代にかけて多くの建築物を建ててきた。これらの市有建築物をこれまでどおりに、建築後40～50年で建替えた場合には、建替え・修繕費等に年間700～800億円かかり、平成32年（2020年）では1,200億円強を要することが想定され、これでは福岡市の財政は立ちゆかなくなることが目に見えている。

そのため、当面は、現況の市有建築物を建替えるのではなく、長寿命化していくことが命題なのである。したがって、平成42年（2030年）頃までは、その建替え・修繕費等を400億円程度に抑えることが最大の目標である。

●20年後はどのようにするのか……

平成42年（2030年）頃までは、あくまでも



これまでの通りに 30～40 年で建替え事業を進めた場合の建替え・修繕費等（市有建築物のみ）

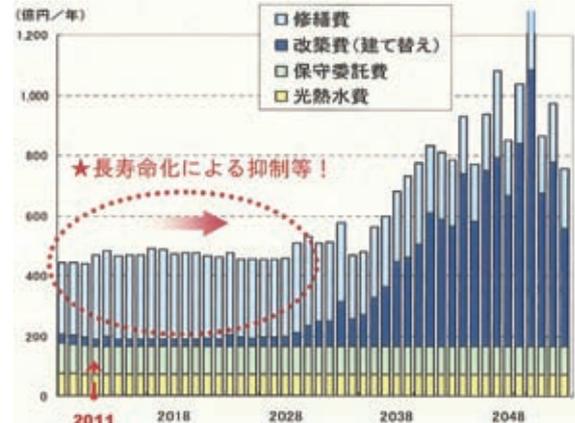
建物を長く使用する延命措置でしかなく、20 年後以降には、同じように建替え事業が急激に増加し、建替え・修繕費等が増加することには変わりはない。したがって、この 20 年後以降をどうするかが今後の課題である。その解決方法の大きな方針としては次のようなことが想定されている。

- ・福岡市においては平成 37 年（2025 年）ごろが人口がピークとなり、その後は減少していくことが予測されている。
- ・人口減少に応じた市有建築物の適切な配置の再考が必要と考えられる。つまり、市有建築物の統合、廃止を進めることで建替え・修繕費等をどの程度、縮減していけるのかを考えていかななくてはならない。

福岡市においては、さらにアセットマネジメントを確実に実行していくために、市有建築物の改善や建替え事業の一部について見積から入札準備に至る一連の業務をアセットマネジメント部で統括している。

これも市有建築物だけの話であり、市有資産となると他に道路、橋梁、港湾施設、インフラ（下水道、上水道）などが対象となるが、まだ、これらを統括したアセットマネジメントはできておらず、これも今後の課題といえよう。

何事も“モノ”を創った途端から、その維持が発生してくるのである。時代の要請であったとはいえ、高度成長期に公共建築物を一挙に建てたことは当時としてはやむを得なかったとも言える。しかしながら、支障がない限りはでき



長寿命化を図り、経費の平準化を図った場合（市有建築物のみ）

るだけゆっくり、時間をかけて建築していくことも考えておけば、延命処置は、もう少しは楽になったのかも知れないと思った次第である。

（やまだ たつお）

<補足>

福岡市の取り組みを伺い、衝撃を受けたのは、上記の話は、公共施設のうち、現状の把握がもっとも容易な建物（住宅・学校等）だけの話だということである。

公共施設には、建物の他に道路や橋梁、港湾施設、水道、下水道、河川などの数多くの土木施設がある。これらの施設については、現状把握もできていない状況である。福岡市の岸壁等の延長は 41km ほどあるが、劣化の状況を把握するためには、ダイバーが潜って検査するしかなく、現状把握のためだけでも膨大な費用がかかるのだそう。市の財政を圧迫しそうな建物の改築・修繕費は、氷山の一角でしかないと思うと、問題の大きさを改めて気づかされる。

公共施設のアセットマネジメントでは、施設の長寿命化によって、問題が 20 年間ほど先送りされるものの、抜本的な解決策は見つかっていない。20 年後というのは、私たちの世代が 50 代となり、子ども達がちょうど社会に出ていくころである。自分たちの問題として真剣に向き合わないといけないと感じた勉強会だった。

（ほんだ まさあき）

島が生き続けるための挑戦

～小値賀島の観光まちづくりの取り組み～

山田 龍雄、寺山 香

観光の仕事に携わっていると、現在、頑張っている地域が非常に気になります。

最近、小値賀島（以下、小値賀という）が“アイランドツーリズム”ということで、島の資源を活用した体験プログラムの実施、古民家をリフォームした民泊などで、観光客が増えているという話をあちこちからよく聞きます。また、我々も市町村の観光担当の方に「小値賀は体験プログラムや民泊で頑張っていますよ」と紹介したりしていました。しかし、実際に小値賀を体験しないと本当の魅力や取り組みの内容を伝えることはできません。

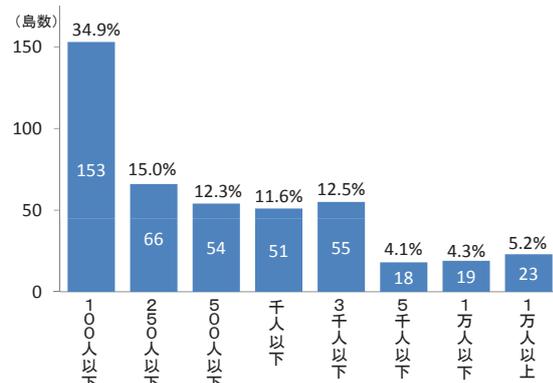
そこで、7月初めに当社の所員3名及びふじねっとのメンバー2名で視察をしてきました。

●島を維持していくことの大切さ

小値賀は昭和30年代には約1万2千人住んでいたのですが、現在では2,851人（平成22年：国勢調査）であり、毎年約80人減少しているという厳しい状況にあります。

小値賀ではNPO法人「おちかアイランドツーリズム」の高砂さんから話をお聞きしました。高砂さんは「小値賀を単なる観光地にするつもりはありません。私たちは観光まちづくりをやっているのです。我が国の島々が無人化していくということは、日本の経済水域が狭くなる

有人島の人口規模別島数



資料：シマダス「日本の島ガイド」（2004年7月）



小値賀島の位置

ということであり、また国防の点でも問題であり、なんとしても小値賀の高校を存続させ、島を存続させたいのです」という主旨のことを話されました。この言葉は、今まで島のことについて深く考えてこなかった、心の琴線に響きました。そこで、我が国の島々の概況を調べると、一層、島々の厳しい状況が垣間みられます。

日本の島の総合案内書である「シマダス（日本離島センター発行：2004年7月）」によると、我が国の島の数は、6,852島というのが定説となっているようです。そのうち人が住んでいる島は、439島となっています。現時点では、さらに無人化した島も出てきており、さらにその数は増加していると考えられます。

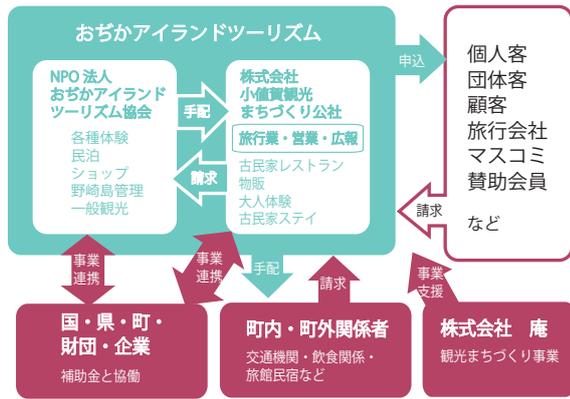
また、有人島のほとんどが過疎化している状況です。人口規模別でみると約6割が500人以下の小規模な島であることを考えると、将来、ますます無人化してしまう島が増えることが懸念されます。

高砂さんが言われていた経済水域や国防の観点から、これから島をどう維持していくのか、無人化した場合に、どのように保護していくの

島の数（シマダスより）

- ・「昭和62年版海上保安庁の現況」において島の数6,852島を発表
- ・島の数え方は①周囲が0.1km以上のもの、②何らかの形で本土とつながっている島では、それが橋、防波堤のように細い構造物でつながっている場合は島とする。それより広くつながっていて本土と一体化しているようなものは除く、③埋立地は除外
- ・この数字をもとに平成元年9月の「第39回日本統計年鑑」（総務省）がそれまでの3,922島を6,852島に変更。

おぢかアイランドツーリズムの体制



かを考えなくてはいけない時期にきているといえます。

このような島の厳しい環境のもとで、島を維持していくための手段の一つとして、観光まちづくりに取り組んでいる“おぢかアイランドツーリズム”の概況を報告します。

(やまだ たつお)

8月8日朝5時に小値賀島に到着し、仮眠をとったといっても疲れの抜けない中、おぢかアイランドツーリズムにて話をお聞きすることとなりました。おぢかアイランドツーリズムの高砂さんは、朝早くから満面の笑みで迎えてくださいました。説明がはじまるや否や、「私達は観光業をやっているつもりはありません。まして、小値賀を観光地にするつもりもありません」と言い切ったのです。

●2つの組織からなる「おぢかアイランドツーリズム」

おぢかアイランドツーリズムはNPO法人「おぢかアイランドツーリズム協会」と「(株)小値賀観光公社」の2つの組織によって運営されています。

観光客の受け入れの流れとして、第三種旅行業を取得している「(株)小値賀観光公社」が窓口となって観光客を受け入れ、NPOにより民泊やトレッキング、ガイドツアーなどの体験プログラムを実施しています。NPOの活動範囲内で収まらない部分を株式会社が担当し、責任を明確にするとともにお互いにカバーしあうことで事業をうまく回しているのだそうです。島にやってくる観光客の実に9割を代理店を通さず

おぢかアイランドツーリズムの主な沿革

- 平成8年4月
 - ・小値賀観光協会立ち上げ
(商工会から独立、職員2名)
- 平成12年～
 - ・「島の自然学校」発足
 - ・平成13年からプロデューサーを雇用して、夏の子ども王国(13泊14日の長期キャンプ)を始める
- 平成17年11月
 - ・グリーンツーリズム等推進組織設立
(民泊事業を7軒でスタート)
- 平成19年4月
 - ・上記の観光協会内の部会が合併し、NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会設立
 - ・主な事業：子供キャンプ、体験、民泊、教育団体自然体験事業、野崎島自然学塾村指定者管理委託事業、物販、PTP事業受入
(アメリカの高校生180名)
- 平成20年度
 - ・古民家調査事業
(古民家ステイ、古民家レストランに展開)等
 - ・農山漁村子どもプロジェクト事業
(先導的地域指定)6校受入
- 平成22年1月
 - ・事業展開のため旅行業免許の取得と株式会社小値賀観光まちづくり公社設立、連携

に受け入れており、今回のツアーも全面的にお願いしました。

おぢかアイランドツーリズムは、平成8年に観光協会として立ち上がりました。平成12年に「島の自然学校」として小値賀島のそばにある野崎島という無人島で子供向けの自然体験(長期キャンプ)を開始し、好評を博しました。その後、平成17年に長崎県が旅行業法上の簡易宿泊業の規制緩和を行ったことをきっかけに民泊業をスタートさせ、この事業が2007年のアメリカのPTP事業(国際親善旅行による世界平和への貢献を目指して毎年数万人の若者を世界各地に派遣している欧米人団体の事業)の参加者アンケートで「世界一」の評価を受けたことをきっかけに、大きく知名度が上がることとなりました。

一連の事業に取り組み始めた平成8、9年までは、島の歴史・景色を楽しみに来る人やアウ



美しい海岸でのカヌー体験

トドアのお客さんが年間2,000人程度でしたが、現在では、民泊等の利用客が8,000人ほどに増加し、年間約1万人（約5倍）になっています。また、関東方面からの観光客が多いということです。

現在、おぢかアイランドツーリズムが行っている活動として、①民泊、②体験事業、③古民家活用事業の3つがメインとなっています。今回は民泊と体験（カヌー、島内ガイド）に加え、古民家見学をさせていただきました。

●美しい小値賀の海にも変化があった

おぢかアイランドツーリズムでのヒアリングの後、体験事業の一つ、カヌー体験を行いました。最初に簡単なレクチャーを受け、いざ海へ入ってみると、我々のような素人でも簡単に操作することができ、すぐに慣れることができました。しかし、2人で操作するため、バランスを取らないとうまく方向転換ができないこともあったようです。小値賀の美しい海岸で行うため、海の魚などを見ることができると想像していましたが、それは叶いませんでした。

講師の話によると、20年ほど前は海の資源も豊富で、アワビなども獲れたそうですが、近年になって海が痩せてきているため、一見美しく見える小値賀の海も、開発などにより砂浜の砂が減ったり、海洋資源が減少するなど、少しずつダメージを受けているのだそうです。昔は、学生が自分で潜ってアワビを獲り、大きなものは2万円近くで売っていたため、良いアルバイト収入になっていたようです。海に潜っては獲れるアワビが「お金」に見えていたそうです。



民泊では食卓の上に乗らないほどの料理が出た

カヌー体験の講師は、元々地元の方で、Uターンして地元での仕事を行っています。

おぢかアイランドツーリズムは総勢18名（NPO 9名、株式会社9名）となっており、18名のうち2/3がIターン組で活躍しています。小値賀では、近年6年間で80人のI・J・Uターン者が移住しており、多くの方が農業に従事しているそうです。農業の方でも、研修制度を活用し、積極的に受け入れを行っています。

●お試し期間を経て、民泊が開始された

カヌー体験を終了して、今回泊まる民泊へ移動しました。お世話になるのは、漁業を営んでいる宇戸さんのお宅です。宇戸さんは、平成18年度に民泊をスタートした時からの受け入れ参加民家で、当初は、7軒でスタートしました。以下、宇戸さんと高砂さんからお聞きした話をまとめたものです。

- ・最初の受け入れは、修学旅行生100人ぐらいを半分に分けて、野崎島のキャンプ場と民泊のセットで行い、2日目には入れ替えという方式で行っていた。
- ・民泊をいきなり始めるとなると、いくら人なつっこい人柄の島の人でも抵抗を持たれるので、まずはNPO主催イベント等でキャンプに来る子供たちを最終日だけ、ホームステイで受け入れてもらうということを繰り返して、お試し期間を設けることにより慣れてもらってから、参入してもらっている。
- ・現在、民泊受け入れは40数軒。このうち20数軒がいつでも受け入れOKの民家で、残り20軒ぐら이가修学旅行生などの大型の受け



小値賀町斑島にある世界最大級のポットホール

入れで間に合わない場合のサポート受け入れの民泊となっている。

- ・民泊体験に来る人は小中学生だけでなく、社会人が研修として来られることも多い。また、外国人の対応だが、受け入れてみると意外と日本の子ども達と変わらないということに気が付いた。それからは接し方も日本の子ども達と同じように接するようになった。

様々な話をお聞きしながら、夕方まで時間があつたため、男性陣はお父さんと一緒に魚釣り、女性陣はお母さんと一緒に夕食の手伝いをして時間を過ごしました。肝心の釣果ですが、まさかの大漁で、30匹以上のアジを釣ってきた時には、お母さんも驚いていました。

夕食は刺身、天ぷら、煮物、酢の物、お寿司、焼き魚などに加え、夕方釣ってきたアジの刺身も加わり、食卓の上に載りきれないほどの料理が並ぶなか、お酒を制限しているお父さんも少々お酒を味わいながら、楽しい夜を過ごすことができました。

●豊富な海洋資源によって成り立った小値賀島

翌日、民泊を出発して、ガイドさんと一緒にまち歩きを行いました。本島から他の島に渡って岸壁や日本最大級とされるポットホール（河底や河岸の岩石面上にできる円形の穴）を見にいたり、小値賀町のほぼ全域を見下ろすことができる島で一番の絶景スポットなどを案内してもらいました。

小値賀町は高い山がない分、道路が縦横に走り入り組んでいます。その多くが漁師の町であったといい、今も名字などにその名残が残っ



思わぬアジの大漁

ています。例えば、博多屋さん（福岡）、堺さん（大坂）、薩摩さん（鹿児島）などです。これらの人は江戸時代に鯨を追って小値賀に住み着いた人々の子孫らしく、様々な場所から移住してきたことがわかります。

●磨かれた感性に古民家が再生した

最後に、昼食として古民家を改装したレストラン「藤松」に立ち寄りました。おぢかアイランドツーリズムのメイン事業の一つとして、古民家活用事業があるのですが、現在4軒の古民家ステイと1軒のレストランの事業を行っています。以下、古民家ステイについての紹介をします。

- ・古民家は全てアレックス・カーが古民家再生のデザイン監修として基本デザインのコンセプトを指導し、残りは設計士が図面を手がけている。
- ・アレックス・カーのこだわりとして、民家は使わないと価値がないという考えである。古民家であっても「明るさ」「暖かさ（寒くないようにする）」「清潔にする」ことをコンセプトにして、できるだけ窓をとるような設計となっている。また、空調機も木の棧で隠すような工夫をしている。
- ・事業としては公設・民営形式で実施している。古民家を所有者から寄付してもらい、改造費は国の補助金を活用し、実施した。運営をNPOで実施している。総事業費は4軒の古民家で約2億円（国が1億8,000万円、町が2,000万円）。
- ・民泊と同じように簡易宿泊所の許可を得て営



改修された古民家

業している。所有者には、帰省したときに優先的に利用できるというメリットがあり、合意がなされた。

- ・事業をはじめるとあって、①財源確保、②既存旅館との折り合い、③島の中でのコンセンサス（議会等から事業性の心配）という課題をクリアするまでに3年の月日を要した。
- ・顧客のターゲットとしては、時間的・金銭的に余裕のあるシニア層の一定の利用があると考えていたが、実際は20代～30代の若い世代や女性に圧倒的に支持されている。

古民家を実際に見せていただくと、和と洋がうまく調和し、使いやすい設計となっています。照明はダウンライトやスポットライトを多用し、床の上にソファをおかず、あえて床を下げてソファを設置することで天井がすっきりしている点などは外国人ならではのセンスだと感心してしまいました。

レストランも、こだわりのある内装がとても美しく、多少金額は高くとも古民家ステイを楽しみたいと思います。若い世代が多い、というのも納得できました。

●これからの小値賀を担う観光

今後のおちかアイランドツーリズムは、民泊事業0.5億円、体験事業1億円、古民家ステイ1億円、物産加工業2.5億円の計5億円の売上と雇用を50名生み出すことを目標としています。また、今後観光まちづくりを推進していくためのコンセプトとして、「商品力と営業力でお客さんを獲得していくと同時に島外のファンによるネットワークをつくるのが大切だと思

アレックス・カーについて

アメリカ、メリーランド生まれ。1964年初来日。少年期に体験した日本の美しさと失われゆく現状を国内外に訴え、次代へ残すべく、文化芸術活動の推進、講演、執筆活動などを行い、日本各地に残る美しい風景と文化を守り伝える事業を推進。その一つとして、京都の町屋再生事業、コンサルティング事業を手がける株式会社庵（いおり）を2003年に創業。小値賀に残る古民家を再生、活用する新しいもてなしの形をプロデュースしている。著書に「美しき日本の残像」（新潮社、1993年）、「犬と鬼 -- 知られざる日本の肖像 --」（講談社、2002年）など。

う。これらを合わせて島が目指しているものを継続して伝え（翻訳すること）、発信していくことが全体として島民の力をつけることにつながっていく」と高砂さんはおっしゃっていました。

「しかし、あくまでそれは島内を潤すこと、島内の人口が減り行く中で人々に島に残ってもらうための方法の一つでしかありません。これからは団体客を受け入ればかりしていくのではなく、観光客一人ひとりに小値賀のよさを知ってもらいたい。小値賀の良さを生かすために観光があると思う」ともおっしゃっていました。

観光地になることは、島を潤すとともに、島を破壊する危険性も伴っています。自然だけではなく、住民の生活が壊れてしまっただけでも元も子もありません。最初に話していた「小値賀を観光地にしたいのではない」という言葉の意味もこの辺にあるのかもしれませんが。私達も観光地から、島のことを考えた観光のあり方を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

ニーズに合わせるのではなく、島を、島民を最大限活かしてあげる。それが島のブランドを保つことになり、魅力を感じ、島を大切に思った人が来てくれる、増えていく。そんなサイクルができればと、帰りの船の中、いつまでも手を振り続けてくれる民宿のお母さんと協会の人を思い出しては考えてしまいました。

（てらやま かおり）

甘木市・秋月「廣久葛本舗」での 創作料理体験と本葛工房見学

山田 龍雄

7月中旬の土曜日、甘木（現朝倉市）・秋月の廣久葛本舗（以下「廣久」という）の“離れ”にて催される「本葛料理と地元のお酒を楽しむ会」のお誘いを受けた。この会の企画を行ったのは、ライフスタイルをベースにファンが出来る商品、店づくりのコーディネートをしている余田豊美さんである。彼女は、食べ物や料理に対して造詣が深く、この種のパーティをよく企画されている。食い意地が張っている私は、先約の用事がない限りはできるだけ参加するようにしている。

今回の料理人は福岡市内でフランス料理店「シェラパン」を経営している神谷浩さんであり、彼にとっては和食創作料理へのチャレンジでもあったようだ。また、神谷さんは、戦国時代から江戸時代にかけて博多の豪商として活躍した神谷宗湛（かみやそうたん）の末裔（18代目）にあたる。

主催者である廣久の高木久助社長は、本葛製造の創業者から数えて10代目であり、今回の食事は、まさに歴史的人物の末裔と伝統を受け継いだ末裔とのコラボでもあった。

●モニターとしての食事も

食事が催された“離れ”は、先々代が応接室兼客間として昭和5年頃に建造されたものであり、天井も高く、窓側には庭と池が設えられており、落ち着いて食事するにはこれほど適し



“廣久の離れ”で葛料理をいただく

た空間はない。

この“離れ”は、これまでプライベートでは使用していたが、お客さんに開放していなかったの、少し手入れをして、使えるようにしたそうだ。今回の食事は、この離れの活用方策の実験の場でもあった。

当日の参加者は、余田さんのつながりのある18名の参加があった。料理のメニューは下記のとおりである。各料理とも素材が良く、かつ丁寧に作られており、美味であった。

煮物や焼き物では、本葛を使ったあんをソースに使い、椀ものでは汁に本葛を少し溶かし込まれており、香りと喉ごしを楽しませるような工夫がされていた。

しかし、本葛本来のストレートな味を楽しめたのは、デザートとして出された「葛きり」であった。本葛100%使用の葛きりを黒蜜をからめて食すると、黒蜜の上品な甘さに加えて、本葛きりの滑らかさと適度な歯ごたえを同時に味わうことができた。

今回の食事は、本葛を使った創作料理を提供することの意見を求められた。私としては①離れは、魅力的な空間であるので活用すべきである。②この場所での本格的な料理は予約制として提供しても良いが、本日提供されたメニューより、少し軽めのものがあった方が良いのではないか（本日の料理は、定価では7,000円ぐらいになるそうだ）③秋月での観光客向けには、1,500～2,000円の軽食コース（例えば、本葛きり、焼き物又は煮物、ご飯、デザート）、もあった方が良いのではないか、などをアンケートに記入させていただいた。

食事会のメニュー

前 菜：海老シュサイ枝豆ジェリイ寄せ
鯉のあらい
椀もの：鱧の葛たたき
煮 物：葛そうめん
焼き物：鮎の塩焼き
酢の物：鰻と胡瓜穂紫蘇の三杯和え
青紫蘇ご飯、香のもの
葛きり、葛葉茶



歯ごたえもよかった鱧の葛たたき

●「廣久葛本舗」は本葛 100%で造っている全国でも貴重な工場

食事会が終了したあと、高木社長より本葛粉製造の工場を案内していただいた。これまでに3～4回、秋月を訪問し、廣久の売店にも立ち寄ったこともあったが、今回、話をお聞きし、ここが貴重な工場であることを認識させられた。

全国でも国産・自生の葛を100%使用して本葛を製造・販売している家内工業的などころはいくつかあるらしいが、会社組織として製造しているところは、廣久ぐらいなのだという。また、葛の原料調達と製造法は興味深く、その話を聞くと、本葛の価値が倍増する。一般的に、スーパーなどで売られている安めの葛は、並葛(なみくず)といって甘藷100%で造られた葛と芋澱粉をまぜた葛が多い。

●葛の掘り手の担い手がないことが、最大の課題

現在、本葛粉の原料のほとんどは鹿児島県の鹿屋市(旧串良町付近)から調達している。本葛粉は、30～50年の寒根葛(かんこんか)の根っ子を原料とする。葛そのものが道のない山の斜面地に自生しているため、掘る作業は手掘りとなる。この手掘り作業が、手間と労賃とがあわず、後継者がいないことが課題となっている。

戦前までは、福岡県内のどこでも葛はあったそうだが、戦後の植林政策によって自生の葛が少なくなったこと、また、掘り手がいなくなったことから、現在、原料生産地は鹿児島や宮崎がメインとなっている。

全国でも国産といわれている本葛の原料の約



黒蜜をつけた本葛きりは本当に美味であった

9割が鹿児島と宮崎から調達されている。

●190年間変わらない伝統的な製法

その製造過程は下記のとおりである。

- ①原料の葛の根っ子を細かく砕く
- ②粉碎した葛に真水をかけ、根に含まれている本葛(澱粉)を洗いながら絞る
- ③水に10日間ぐらい晒す。最初は茶色に濁っているが、何日も水に晒しておく綺麗な白色になってくる。
- ④布に入れ、舟という大型の木箱(底が竹箆の子)入れ、一晩、自然に水を抜いていく。
- ⑤紙を敷い木枠に④の本葛を入れ、手で叩きながら平たくならし絞める。この水抜き作業は、乾燥具合によって手加減があるので機械化はできないようだ。
- ⑥⑤の作業のあと、木枠の上に布をかぶせて、本葛粉をおき、水分を本葛粉に吸い取らせる。
- ⑦ある程度固まったところで1～2ヶ月間日陰干しする。
- ⑧さらに半年から1年間、自然乾燥で寝かして、出来上がりとなる。

ちなみに本葛では100kgの根っ子から本葛は7～10kgしか取れないようだ。葛製造所によっては、腐敗を止めるために石灰水を入れ、これを中和するため硫酸を入れる。さらに早く葛を白くするため漂白剤を入れ、その後、発生する泡を消すため消泡剤(しょうほうざい)を使用するところもある。廣久は全く添加剤を用いず、昔ながらの工法で行っている。

●本葛業界では統一した基準なし

本葛業界では統一した基準がなく、「葛そう



本葛の原料となる約30～50年の寒根葛の根っ子、工場の前に積まれている



工場内の全景、横に並べられた青いポリタンクで本葛を沈殿させる



この木枠に入れた本葛を、さらに手で叩き水気を抜きなどして、乾燥させていく

めん」といっても1%しか葛が入っていても「葛そうめん」といえるらしい。廣久では50%以上の本葛と小麦粉を使用した「葛そうめん」を作っている。したがって、ゆで時間は6～7分と通常のそうめんより3倍近く長い。

実際に、廣久の「葛そうめん」を食してみると、普通のそうめんに比べて確かに喉ごしが良い。

●販売は、直売と通信販売

昭和50年代までは卸問屋を通しての販売が

葛とは…（「廣久葛本舗」のHPより）

- ・ マメ科のつる性多年草。秋の七草の一つ。
- ・ 葉は3出複葉（1枚の葉が進化し、3枚に分かれること）、3枚の葉が扇状に開き良く茂る。
- ・ つるは、初めは、柔らかく毛が付いているが年がたつにつれ太くなり木のような堅さになる。
- ・ 平地では、地面をはうように育ちあたり一面、葛で覆われている空き地や線路ぎわや道路沿いをよく見かける。
- ・ 山では、木に巻きついて育つので、平地とは比べ物にならないくらいに、つるが太くなり根も肥大化する。
- ・ 花は、8月から9月中頃まで咲き、房状の赤紫の甘い香りのかわいい花を咲かせる。
- ・ 花は昔から、乾燥させて煎じて飲むと酒毒を消すとして知られている。
- ・ 根の利用は、葛の根を乾燥させ、粉にし、薬草と混ぜ合わせた物が葛根湯である。
- ・ 葛の根から抽出したデンプンを本葛粉といい、混ざり気のない葛100%のものを本葛という。

ほとんどであったが、市場によって値段が安定しないこともあり、経営的にも厳しくなったことから、平成2～3年頃に工場の表側の道路に面した家の一部を模様替えし、直売所を始められた。今では、販売は直売所、業務用やデパートへの卸し、これまでのファンや口コミで知ったお客さんへの通信販売など多様である。

今回、取材させていただき、本葛が如何に貴重な食べ物であるのかということを知った。また、本葛という食文化を残すためには、寒根葛の根を掘る担い手をどう維持していくのかということも勉強させていただいた。

まがい物でない、本物の味を経験していないと本物の価値はわからない。そのためには、少々高くても、たまには本物を食することをしたいかないと日本の貴重な食文化そのものも失われていくのではないかと思った。

ちなみに今年、南大隅地方の仕事をする機会があり、この地域一帯を車で廻っていると手つかずの自然が多く残っており、至る所に葛のつるが木々に絡まっているのを見ることができた。本葛継続のための原料は、当分大丈夫そうである。今後、本葛を味あう人が増えることで、本葛掘りの担い手がでてくることを期待したい。

（やまだ たつお）

自転車三昧の夏

～しまなみ海道、錦江湾一周
自転車ツアー～

原 啓介

自転車は、私の趣味の一つである。これまでマウンテンバイクや小径車に乗っていたが、今年の8月、友人からロードバイクを譲り受けた。

そこでこの夏は、友人達としまなみ海道ツアーと錦江湾一周ツアーに行ってきた。

●しまなみ海道は、ロケーション、ハード、サービスともにハイレベル

西瀬戸自動車道、通称「しまなみ海道」は、広島県尾道市の西瀬戸尾道ICを起点とし、向島・因島・生口島・大三島・伯方島・大島などを経て愛媛県今治市の今治ICに至る有料道路である。しまなみ海道は様々なメディアで紹介されている日本有数のサイクリングコースであり、日経新聞土曜版の「なんでもランキング」でも、おすすめのサイクリングコースランキング1位に選ばれている。

私がしまなみ海道を走ったのは8月20日。朝8時頃、尾道を出発し、途中で直売所や商店街、博物館等に寄り道しながら、午後5時頃に愛媛県今治市へ到着した。尾道の宿泊施設を出発してから今治市の宿泊施設に到着するまでの総走行距離は約90kmであった。

私が感じたしまなみ海道の魅力は、まずはそのロケーションである。大小様々な島々が連なる瀬戸内の景観、漁村の営み、斜面に広がる田畑や柑橘類の畑。三連つり橋の来島海峡大橋、塔から斜めに張ったケーブルで橋を支える斜張橋の多々羅大橋など眼下に海を眺めながら走るコースは「空中サイクリング」と言われる所以である。

また、ハード面の整備状況にも感心した。それぞれの橋には自転車専用道が完備されており、一般道から橋に出入りするための取り付け道が自転車専用のループ橋であったりする。そして、尾道から今治に至るまでの道路には十分な広さの自転車専用レーンが設けてあり、路面



しまなみ海道の因島大橋



しまち商店街のゲート

の凹凸やタイヤがはまりそうな側溝も無い。一部分、自転車道が歩道上に設けられている部分もあるのだが、車道から歩道に入る際の段差が非常になめらかに作られており、ストレスを全く感じない。

そして、ソフト面も充実している。例えば、生口島のしまち商店街は、入り口のゲートに「サイクリストオアシス」という看板を掲げており、自転車愛好家達を迎えている。この商店街に入ると、サイクルジャージに身を包み、高価な自転車に乗った方々がしばし自転車を止め、ローストチキンをほおぼっていた。さらに、尾道から今治までの間には、レンタル・相互乗り捨てが可能なサイクルターミナルが10箇所設置されている。これらは自治体が運営している。加えて、サインやマップも充実している。また、「シクロツーリズムしまなみ」というNPO法人が現地発着のガイド付き自転車ツアーを展開している。

このように、しまなみ海道は、さすが聖地だけあってロケーション、ハードと、その上に展



南大隅町に入ってから、山、里、海の多様な風景を楽しむことができる

開されるソフトが渾然一体となってサイクリストを迎えている。

しまなみ海道開通前（1998年）の今治市への観光客は314万人であったのが、開通後は約500万人に増加している。しまなみ海道の整備をきっかけに、地域住民、事業者、地方自治体が自転車観光客にターゲットを見据えた取り組みを一体的に進めた効果が現れている。

●大隅半島のサイクリングツアーの可能性を探る

さて、話題は九州へ。今年3月12日に九州新幹線が全線開通して約半年が経過した。鹿児島県によると、7月の同県への宿泊観光客は前年度比23.5%増加している。また、新幹線の終着駅である鹿児島中央駅と指宿駅を結ぶ観光特急「指宿のたまて箱号」は乗車率が95%と、ほぼ満席が続く状況であり、鹿児島市周辺ならびに薩摩半島への恩恵は大きい。しかし、大隅半島へと目を転じると、新幹線開通の波及効果は対岸と比較して大きなものとは言えない。県が7,000万円の予算を投じ、大隅半島への宿泊観光客に対して24時間分のレンタカー利用料金を全額補助するキャンペーンを実施しているものの、その効果については地元事業者から疑問の声が挙げられている。

そのような状況下、3月下旬から7月にかけて雪丸君と私は南大隅町地域経済活性化協議会からの委託を受け、観光資源掘り起こしと商品開発のためのワークショップを3回開催した。このワークショップには、毎回30名以上の町民が参加されていたのだが、その中で、地元の方々から錦江湾沿いの雄大な自然景観を楽しむ



本土最南端の民宿にて、石鯛や伊勢エビなど、大隅の海の幸をいただいた

ことができるサイクリングツアーやトライアスロン大会の誘致に関する意見が挙がっていた。世の中の健康志向・環境効率性への志向を勘案しても、サイクリストをターゲットとしたツーリズムへの需要はまだ伸びる余地はある。ならば一度試行してみようということで、大学時代にサイクリングサークルで全国を回っていた友人と雪丸君、そして私の三人でモニターツアーを企画したのであった。

鹿児島へと向かったのは、しまなみ海道に行った翌週8月27日であった。朝7時過ぎに輪行バッグに自転車を詰め、九州新幹線に乗って博多駅を出発し、1時間半後に鹿児島中央駅に到着。そこから鴨池港まで自転車で30分ほど走り、フェリーで垂水港へと向かった。そして垂水から佐多岬までの約70kmは、自転車での旅である。途中で、鹿屋のカンパチを堪能し、右手に桜島や開聞岳の雄大な自然を楽しみ、直売所に立ち寄りながら南大隅町役場付近に到着。ここまでは楽しいツーリングであったが、南大隅町内の旧佐多町に入ってから急なアップダウンが続いた。佐多支所（旧佐多町役場）付近から歯を食いしばって必死にペダルを漕ぐこと1時間半。夕方6時半頃、やっとのことで本土最南端の民宿「なぎさ」に到着した。ここで我々を出迎えたのは、漁師でもあるご主人が自ら仕留めた石鯛と伊勢エビであった。その美味しいこと。地元大隅半島の芋焼酎をいただきながら、疲れを癒した。

夜が明けて28日の朝6時頃、民宿を出発して佐多岬へと徒歩で向かった。民宿から大隅半



佐多岬に登る朝日

島の先端部まで30分程度歩き、佐多岬からの日の出を拝んだ。この辺りにはソテツが群生しており、南国情緒たっぷりであった。ニューデリーやカイロと同じ北緯に位置するのだから、それもそのはず。1871年に設計された白い灯台の後ろから登る朝日は雄大な景観であった。しかし、岬先端部に岩崎グループの廃墟があるのは残念。佐多岬一帯は岩崎グループが所有しているのだが、国立公園内であり規制が厳しいことや、今後の整備に多額の費用が必要であると見込まれることなどから、今後、投資をする計画はないそうである。施設の整備とまでは言わないが、防犯防災の観点からも、せめてこれらの施設を撤去してはどうかと思う。

大隅半島ツーリングの見所は、その独特の景観であった。一帯は2万数千年前の火山噴火により形成されたカルデラであるため、地形は山が急な崖となって落ち込み、急斜面に造られた棚田のすぐ下が海となっている。海風を体全体で感じ、山間部の原生林、山から海の間田園風景、そして海の向こうの開聞岳を一望しながら走ることができるこの環境は、大隅半島ツーリングの醍醐味であろう。それに加えて、南大隅町には競輪場のような自転車バンクがある。私もバンクを走ってみたのだが、端から見るよりも壁がそそり立っていて恐怖を感じる。しかし、自転車好きの人の中には一度は走ってみたいと思う人が多いのではないだろうか。

朝10時過ぎにバンクを走った後、大隅半島の根占港から薩摩半島の山川港へフェリーで渡り、自転車で指宿まで移動。指宿で砂蒸し風呂に入った後、観光特急「指宿のたまて箱」号に



自転車バンクは誰でも走ることができる

乗って鹿児島中央駅へ。その後、新幹線で博多へ向かい、19時頃に博多駅に帰着した。

鹿児島ならではの農畜水産物や焼酎、温泉などの土地の魅力を楽しみながら走る「錦江湾一周ツアー」は、自転車という乗り物を使うからこそ、土地の風土、言葉、薫りを体全体で感じることができる内容であり、福岡からの一泊二日ツーリングコースにぴったりだと思う。健脚の方であれば、鹿児島市からフェリーで桜島に渡り、ごつごつした火山岩を間近で見ることができる「溶岩ロード」を起点に大隅半島を南下、そして佐多岬周辺で宿泊。次の日は薩摩半島を頼娃街道に沿って北上するコースがオススメ。

錦江湾一周ルートは、自転車観光ルートとして先に述べたような大きなポテンシャルを持っていると思う。自転車レーン整備や凹凸の解消、サイン整備など、時間も予算もかかる整備は徐々に進めていけば良いと思うが、自転車観光の情報発信、マップづくり、人々のもてなし意識の醸成、サイクリスト向けの食事・特産品メニュー開発など、比較的小金のかからないソフト面の取り組み、徐々に受け入れの環境をつくっていければ、南九州を代表するサイクリングコースになりうるポテンシャルがあると思う。ぜひ、しまなみ海道のように官民、地域一体となってターゲットを見据えた観光の魅力づくりを行って頂きたいと思う。

●サイクリストはよく飲み、よく食べる観光客

サイクリストは体が資本なので、よく飲み、よく食べる観光客である。また、疲れた体を癒すために宿泊を伴うことが多い。加えて、周りの自転車好きを見渡しても、好きなことには投

資をいとわない、消費性向が高くアクティブな人が多い。さらには、レースなどの大会を誘致できれば、愛着を持って毎年訪れる観光客になってくれる。地域の観光事業者からすると、なかなか有望な客層なのではないだろうか。

自転車まちづくりは私の趣味と仕事がクロスオーバーする部分であり、今回の南大隅町のように、観光商品開発の意見を述べさせて頂く仕事は大変ありがたい機会であった。この分野には、これからも関心を持ちつづけていきたいし、仕事で訪れる様々なまちを自転車で走って、そのまちの雰囲気を感じていきたいと思う。

(はら けいすけ)

近 況

未婚の男女別人口で考える結婚への道

6月頃、ある飲食店の女将さんから「うちには本当に年頃の独身女性が来るのだが、なんとかならないものですかね。気だての良い女性ばかりなんだけどね」といわれました。少々お酒も入って、気分も良かったせいか「わかりました。男性の方は、少々年齢が高くなるかもしれないが、何とか婚活パーティを企画してみましようか」と安請け合いをしてみました。

私の知人を通じて20代後半から40代までの5人の男性を手配することができ、8月始めに無事、飲み会を企画できました。その後、参加者の女性3人、男性3人ぐらいで第2回を企画したというから、今のところは進展しているようです。言い出しっぺの私としては、一応役割は果たしたのかなと肩の荷をおろしています。

また、個人的にも数人の女性から「誰か良い男性がいませんかね。紹介してくれるところは

ないでしょうか」といったことを尋ねられることがあります。

これまで結婚の相談など、全く縁のなかった私にも、このような話しが舞い込んでくるということは、最近の結婚事情の厳しさを表しているのではないかと考えさせられます。

結婚とは、“縁”あつてのものとは言えますが、単純に適齢期の男性と女性の量でみた場合、やはり女性にとっては、知り合う男性が多い方が、良い男性に巡り会う確率が高くなります。

そこで、全国の主要都市で「未婚で主に仕事をしている男女別就業人口(20～44歳)をみてみました。

<福岡市、鹿児島市の女性は婚活を頑張らないといけない>

九州・沖縄の県庁所在地等の9都市(北九州市含む)の中で、女性が多い都市が5つ(福岡、長崎、熊本、宮崎、鹿児島)あります。中でも福岡、熊本、宮崎の3都市では、未婚者の人口で男性が多いのに対し、主に仕事をしている未婚の就業人口に絞ると、女性の方が多いという変わった結果になりました。

データを細かくみてみると、20代で就業している女性はかなり多く、男性が少ない状況です。未婚の男性は多いのに、働いている男性は少ないということが言えるかもしれません。20代の女性は、同世代で働いている男性を探すのは大変です。特に鹿児島は、女性への偏りが大きくなっています。未婚で働く男性が最も重宝される都市といえるかもしれません。

ちなみに、全国の主要都市をみてみると、札幌市と神戸市が女性が多いという状況ですが、東京、大阪などの大都市では男性が多くなっています。なぜ、九州の都市の多くで未婚の働く

		福岡市	北九州市	佐賀市	長崎市	熊本市	大分市	宮崎市	鹿児島市	那覇市	未婚で主に仕事をしている男女別就業人口(20～44歳) (単位:人)
総人口 (未婚者)	男	149,682	76,252	16,806	31,060	55,618	35,667	22,358	47,715	29,277	※赤色は女性が多い都市を示す。青色は、未婚の男性が多い都市だが、就業人口で、女性が多くなっている都市を示す。
	女	140,035	66,779	14,386	32,102	51,399	32,076	21,978	49,839	25,177	
	差	9,647	9,473	2,420	1,042	4,219	3,591	380	2,124	4,100	
就業人口 (主に仕事)	男	79,463	46,359	10,199	19,431	33,763	23,837	14,213	28,172	16,514	
	女	85,349	42,948	9,579	21,501	34,445	22,595	15,091	33,701	14,166	
	差	5,886	3,411	620	2,070	882	1,242	878	5,529	2,348	

		東京23区	横浜市	大阪市	名古屋市	札幌市	神戸市	京都市	広島市	さいたま市
総人口 (未婚者)	男	1,009,327	362,174	2,545,84	2,176,68	1,749,74	1,259,00	1,524,05	94,729	1,155,28
	女	817,112	254,882	2,223,55	1,624,69	1,660,09	1,181,14	1,355,37	82,955	81,773
	差	192,215	107,292	322,29	551,99	8,965	7,759	16,868	11,774	33,755
就業人口 (主に仕事)	男	562,597	241,022	1,460,23	1,429,47	95,108	72,042	80,650	63,399	76,793
	女	473,682	169,477	1,322,80	1,066,66	99,940	72,213	76,114	56,085	54,426
	差	88,915	71,545	137,63	362,81	4,832	171	4,536	7,314	22,367

女性が多いという現象が起きているか、このデータだけではわかりませんが、面白い現象なので、さらに分析をしてみたいと思います。

以上、未婚男女の数字だけみて、結婚のことを記述しました。女性も男性との差がなく働く機会は、一昔前に比べて増えてきているとは思いますが、出会いの機会は増えているとは思われません。 (山田 龍雄・本田 正明)

色鮮やかなバザラ像とともに当時を追体験した

先日、「ウルトラマン」で有名な円谷プロダクションの初期のSFテレビドラマがモノクロ作品が着色されて発売されたとを聞きました。映画のカラー化はすでに行われ賛否両論受けていますが、改めてみると、「ああ、この怪獣はこんな色だったんだ」と、感動すら覚えました。

話は変わりますが、お盆休みを利用して奈良に行ってきたときのことで。ぎりぎりのスケジュールを組み、多くの仏像を見ていく中で、特に興味深かったのが新薬師寺にある十二神将像でした。

この十二体の塑像（木の骨格に土を塗り固めて作った像）は、薬師如来を守護する武神の姿で、奈良時代の作です。十二神将像が展示してあるそのすぐ脇に、CGによってカラーの像が再現され、パネルとDVDで展示されています。

驚いたのが、再現された十二神将像が現在の土気色をした像とは全く違う、色鮮やかな姿をしていたことです。天平文化は当時の遣唐使の影響もあり、華やかであることは知っていたのですが、ここまで原色に近い、色鮮やかな像とは思いませんでした。鮮やかな色は丹・藍・ベンガラといった鉱物や植物の天然顔料によって彩色され、細やかな文様とともに当時最高峰の技術を使い制作されたものだということがよくわかりました。

十二神将像で最も有名な伐折羅（バザラ）大将像を例にすると、逆立った赤い髪、反対に青い顔をしてにらみつける形相、彩られた甲冑を着ている様はまさに神の姿そのものです。こんな鮮やかな神々の姿を見ながら奈良時代の人は何を願ったのだろう、と考えてしまいます。

先に書いた「ウルトラマン」の白黒作品のカラー化ですが、カラーにするにあたって参考になったのが当時の資料、実物、しかしそれだけでは十分な再現を行うことは難しかったそうです。そんな中、最も重視されたのが実際に作品を作ったスタッフの「生の声」だったそうです。約60年前の作品でもそれほどだったのですから、生の声など聴けるはずもない、文献も数多くは残っていない約1,250年前の仏像の配色、というのが如何に困難を極めるものだったのかが想像できます。



色鮮やかなバザラ像
（『バザラにホレた！』
のCGをもとに作成）

レーザー照射によって全体像を把握した後で、わずかに表面に残る塗料や文献、同年代の他の文化財の色味などを吟味した上で着色していく作業は困難を極めたそうです。実際、わずかに甲冑の隙間に残った色を頼りに全体の色彩を把握していく、という作業が何度と無く繰り返されました。

パネルと一緒に色彩を再現するまでのDVDが上映されていたのですが、お盆すぎの平日午前にもかかわらず多くの人が途中で退席することもなく見入っているのが印象的でした。実物を見ながら再現されたバザラ像に思いを馳せていたのは私だけではなかったのかもしれない。

現在でも白黒作品のカラー化は賛否両論あるとありますが、カラー化を行うことで生まれる新たな発見、驚きもあります。再現された色を見て、当時の人と同じ気持ちを共有することができる、それこそが今だからこそできる最高の贅沢なのかもしれないですね。 (寺山 香)

先に書いた「ウルトラマン」の白黒作品のカラー化ですが、カラーにするにあたって参考になったのが当時の資料、実物、しかしそれだけでは十分な再現を行うことは難しかったそうです。そんな中、最も重視されたのが実際に作品を作ったスタッフの「生の声」だったそうです。約60年前の作品でもそれほどだったのですから、生の声など聴けるはずもない、文献も数多くは残っていない約1,250年前の仏像の配色、というのが如何に困難を極めるものだったのかが想像できます。

八女市上陽町 手づくり焼酎「環」のご案内

～飲むほどに、酔うほどに地域が豊かになる焼酎です～

このプロジェクトは、NPO 法人グラウンドワーク福岡が、八女市上陽町の耕作放棄地を活用し、地元農家と都市住民との協働により取り組んでいるものです。昨年 11 月に収穫した黄金千貫を使用した焼酎は、熟成されて 10 月頃に販売できる予定です。

上陽町の中山間地では高齢者の買い物や通院など、日常的な生活のサポートが必要です。販売した収益の一部は「豊かさ基金」として積み立て、上陽町の安心・安定な暮らしを支援する資金として活用していきます。なお、当社はこのプロジェクトの構想段階よりお手伝いをしており、販売の応援をしています。なお、焼酎の販売本数は 1,000 本（1 本 720ml）程度と限られていますので、お早めの申込をお願いします。

- 1 本：1,500 円（代引手数料別、送料別）
 - 3 本：4,500 円（代引手数料込、送料別）
 - 6 本：9,000 円（代引手数料込、九州内送料無料）
- ※九州外は事務局にお問い合わせください

●まるごと体験会員募集！

会費：1 万円

特典①：焼酎「環」3 本（平成 24 年 9 月完成）

特典②：収穫祭への参加

- (1) 芋の収穫
- (2) 試飲会と地元食材での懇談会
- (3) 焼酎についての講話

特典③：その他イベントへの参加

●販売元 NPO 法人グラウンドワーク福岡

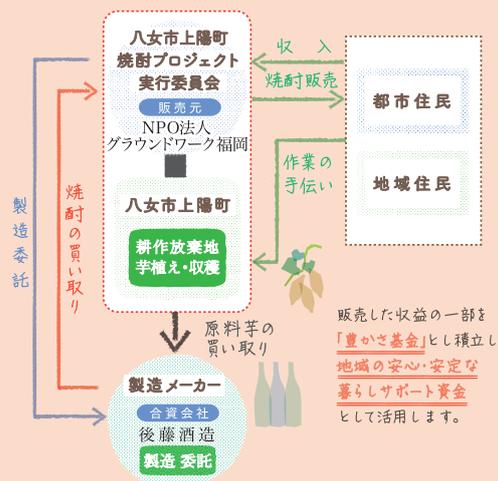
住所：福岡市博多区美野島 2-16-8 日大ビル 4 階

TEL：092-414-1234

FAX：092-414-1155

email：gw-fuku@d3.dion.ne.jp

手づくり焼酎「環」プロジェクトの仕組み



編集後記

畑仕事を毎週手伝うようになって、植物の植生の移り変わりや成長の仕方で、季節の変化を感じるようになりました。

雑草の生い茂る速度がだいぶ遅くなり、草刈り作業も楽になってきたことに喜びと秋の訪れを感じている次第です。(ほ)

4 月から出勤前の早朝にジョギングを始めました。きっかけは、友人からマラソン大会に誘われたこと。すぐにシューズとウェアを揃え、まずは形から入りました。最初のうちは 2～3 km でへばっていましたが、マイペースで続けていると、最近では 20km を走れるようになりました。今年はスポーツの秋を存分に楽しみたいと思います。(は)

よかネット No. 104 2011. 10

(編集・発行)

(株)よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3 番 8 号
福岡パールビル 8 階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com

mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6942-5732

東京事務所 TEL 03-3288-0240

名古屋事務所 TEL 052-202-1411

(株)地域計画・名古屋